

新学長 インタビュー

副学長
松本俊穂



学長
坂本久美子



今春4月より学長に就任した
坂本久美子新学長に、
これからの抱負や
トップとしてのビジョンを
語っていただきました。

学長に就任されて、
まずは今の
率直なお気持ちを
聞かせてください。

学長という責任の重さ故に、私で務まるのだろうかという大きな不安がありました。しかし、片岡前学長から「一人で頑張るのではなくて、教職員の方々がっているから大丈夫よ」と言われた時に、「自分だけで頑張ろうとしなくていいんだ」と肩の荷がおりました。

いろいろな壁にぶつかった時に、ある神父様の言葉を思い出します。「最後の最後まで頑張ってくださいるのは神様ですから、シスターが一人で頑張らなくてもいいんですよ。」自らの最善を尽くしながらも、最後には、人知を超えた神に謙虚に身を委ねることの大切さを教えていただいたように思います。それ以来、壁を前にしても、積極的な意味で（なんとかなる）という思いに変えられました。まさに、聖母マリアの受胎告知の「なれかし」（「お言葉どおり、この身になりますように。」ルカ1章38節）であり、ビートルズのLet it be!。今もその時と全く同じ心境です。

純心女子学園の89年の歴史を振り返ると、学園を作り上げるために尽くしてくださいました教職員をはじめ皆さま方が、純心の教育者としての使命感や同

じ温かな気持ちで、一つの方向に向かって来られたのだと思います。その延長線上にある純心学園の歴史の「コマを編むことが、私に託された使命なのだと思います。責任の重さと同時に、教育者としての喜びや使命感を持って、皆さまに助けていただきながら前向きに励んでまいりたいと思います。どうぞよろしく願います。

大学としては厳しい時代ですが、学長からは深刻さではなく、一緒にぜひやっていきたいという思いを感じさせられま



長崎純心大学との最初の関わりや、その時の印象などを教えてください。

7年ほど前に大学の非常勤講師として授業を担当したのが、本学との最初の関わりでした。第一印象は2つありました。まずは挨拶。授業初日、学内で会った学生たちが、初対面の私に元気に挨拶をしてくれて、私の緊張もすぐにほぐれました。

2つ目は、学生の皆さんの素直さです。リーディングの授業を担当しましたが、授業初日以降も学生さんたちからは英語を学ぶことに対するほどよい



緊張感が感じられて、教えていて楽しかったし、やりがいがありました。

時代は変わっても、変わらない長崎純心大学の学生さんの素晴らしい特徴、それは挨拶と穏やかな素直さだと思います。学生の皆さんご自身の性格もあるとは思いますが、環境も人を左右します。学生の皆さんを取り巻く「恵の丘」の大自然と、教職員の皆さまをはじめ、ご家族、友人の皆さんの優しさのおかげなのかもしれません。

全国的に大学が、
厳しい状況にある中で、
大学経営に関わる人が
未来の姿を提示することは
大切です。
将来の純心について、
具体的なビジョンを
どのようにお考えでしょうか。

時代とともに外的状況が変わっていても、純心の精神は変わりません。それは、建学の精神にもあるように、まずは「カトリシズム」、つまり、キリスト教的な愛の精神です。教職員の皆さまにはどのような状況にあっても、自分の身を削るほどの本物の愛を実践できる学生の教育を目指していただきたいと思っています。

より地域に根差し、社会で弱者と言われる人たちに寄り添えることができると思います。優れた専門的知識を蓄えると同時に、それを知恵に変える、豊かな人間性を育てる教育をしてまいりたいと思います。特に、学生自身のニーズと社会や世界のニーズに因應するために、弱い立場の人たちをケアできる心優しい学生の育成を目指します。

日頃、教職員の皆さまとお仕事をすることで、皆さまが仕事に追われながらも一人ひとりの学生と丁寧に関わって



くださっているお姿に気がきます。ここにも本学の特徴が表れていると思います。少人数であるが故のメリットを活かし、関わる学生一人ひとりを大切に育てていくためにも、私自身、今以上に教職員の皆さまが協力し合える環境づくりに努めてまいります。

かつてと比べると、
純心は宗教的雰囲気が少なくなり、
建学の精神を含め、
体験できる機会が少なくなってきたと思いますが、
どのようにお考えでしょうか。

「フレッシュマンセミナー」（1年次必修。2024年度より「純心セミナー」）の授業の中で、「ミサ」や「聖母マリア」などカトリック的な内容も話していますが、その日のポートフォリオでは、多くの学生から「キリスト教入門」の授業への反響が寄せられます。多くの学生が、この授業は宗教の押し付けではなく、人として大切な基本を教えてもらえる貴重な授業だと書いています。この授業は、カトリックの洗礼を受けているかいないかにかかわらず、人間としての基本について聖書を通して筋道立てて説明され、学生たち一人ひとりの心に自然な形で浸透しているようです。こうした日々の学びと、お互いに交わし合う優しさが、本学の宗教的雰囲気を出し出す機会になっているのだと思います。

2024年度から新たに始まる「純心セミナー」では、学内のキリスト教的作品の説明と「恵の丘」ツアーを計画しています。学生の皆さんには、この授業を通して純心の建学の精神を学び、体験してほしいし、学内の十字架や聖母マリア像を目にするたびに、キリスト教

の愛のぬくもりを感じてほしいと思います。同時に、学園創立者早坂司教と初代学園長江角先生のお墓がある純心聖母会や、江角先生が創設した原爆ホーム等実際に足を運び、創立者のことや純心福祉の精神・理念等も体験してもらい、平和の発信地「恵の丘」について学んでもらいたいと願っています。

今後、具体的に
大学として進めていきたい
プランを教えてください。

教室での講義を充実させることに加えて、実現できれば！と考えているのは、地元川平地区や長崎市との企画や、平和活動、被災地支援を含めたボランティア活動、アクティブラーニングの活性化です。体験を通してより具体的に学ぶのも貴重な教育の一つだと思っています。社会に開かれた大学として、できることを理想のまま消してしまわないように、教職員の皆さまの間で沸



坂本 久美子

1968(昭和43)年生まれ。長崎県大村市出身。上智大学大学院神学研究科博士後期課程修了。博士(神学)。鹿児島純心女子中学・高等学校教諭、東京純心大学准教授、長崎純心大学非常勤講師などを経て、2022年4月から長崎純心大学教授・学長補佐を務め、2024年4月から長崎純心大学学長を務める。

[趣味] 読書、音楽鑑賞(オールジャンル)、料理

[座右の銘] 「大切なのは、どれだけ多くのことをしたかではなく、どれだけ心(愛)を込めたかです。」(マザー・テレサ)

[お勧めの本] 好きな本は沢山ありますが、一冊だけ選ぶとすれば…、永遠のベストセラー『聖書』(新共同訳)



き起こっているアイデアについてよく検討し、できるだけ早く実行に移していきたいと思っています。

もう一つのプランは、大学に来ることができない学生たちのケアです。例えば、オンラインなどを活用して、教室での授業参加が困難な学生の皆さんに窓を開き、学生さんが一つの小さなことでもいいのでチャレンジして自信をつけ、本学を選んでよかったと思える機会となるように、この計画もぜひ行ってきたいと思っています。

最後に、学生へのメッセージをお願いします。

学部生の皆さんへ▼自分の大学時代

を振り返った時に、学部生の頃は、英語の教職を目指して授業をしつかりと聞くことに努めました。それ以上に時間とエネルギーを注いだのが、「E S S (English Speaking Society)」という学内の部活動でした。学内で、オールイングリッシュでディベート、ディスカッション、スピーチ、演劇を計画して作品を作り上げ、定期的に他大学とのジョイントのコンテストや発表を行っていました。本当に楽しくて、英語が好きだからブラッシュアップしたくて頑張りました。その中で仲間と過ごす時間や競い合うことの大切さを知り、休みがあれば友人たちと美味しいケーキを食べに行ったりなど楽しい思い出も数多くあります。勉強+αの体験は、身体に刻み込まれた記憶にもなります。充実した学生生活を過ごすために、何かしら自分の中に好きというものを見つけて、体験をすることをお勧めします。

大学院生の皆さんへ▼大学院生時代、楽しかったのは研究科の仲間との

ディスカッションでした。神学的なことから始まって哲学的なこと、さらにはスイーツに至るまで、ディスカッションのテーマはさまざまでした。神とは何か、人間とは何か、生きる目的は何かなど、人間としての根本的な問いをお互

いに投げかけて、自由に答え合う。いろいろな人の考えを受け入れながら視野を広げ、そこから自分の考えを深く掘り下げていく思考回路が、やがて論文研究の糧になっていったと確信しています。大学院生には、自分の興味あることにはもちろんのこと、興味のないことにも耳を傾け、仲間と議論の場を持つて、幅広い研究をやっていたいただきたいと思っています。

留学の勧め▼6年近くローマに留学

しましたが、当初、イタリア語が分からずに人とのコミュニケーションがなかなか取れず、自分の能力の限界を感じて辛い思いをしました。そんな時に、イタリア人の友人から「何もかも完璧になつてから行動しようとしてない？完璧なイタリア語は求めていないよ。間違つてもいいから、心や頭の中にあるものを出したらいいんじゃない？」と背中を押されました。間違いを恐れない、完璧なものを目指さなくていい、弱さをさらけ出す謙虚さの大切さを留学で学びました。留学の「学ぶ」「体験」の中で、自分自身と祖国日本を客観的に外から見る習慣ができました。日本には本当に素晴らしい面が沢山あり、誇りに感じていました。目的意識がある学生の皆さんには、状況が許す限り、留学をお勧めしたいです。



松本 俊穂

1958(昭和33)年生まれ。北海道旭川市出身。エリザベト音楽大学宗教音楽学科パイプオルガン専攻。バイエルン州立レーゲンスブルグ教会音楽学校修了(現 ドイツ国立レーゲンスブルグ教会音楽・教育音楽大学)。純心中高教諭、純心女子短大講師などを経て、2009年から長崎純心大学教授、2020年から学部長、2024年から副学長を務める。

【趣味】ウォーキング、音楽鑑賞、読書

【座右の銘】いつも用意していなさい。人の子は思いがけない時にやってくるのです。(ルカ福音書12:40)

【お勧めの本】内田樹「修業論」「武道論」

以上の自分の学生時代の体験を通して皆さんにお伝えしたいことは3つです。

1. 集中して授業を聞くこと
2. 自分が興味・関心のあることを「体験」して、そこから意欲的に学ぶこと
3. 何事も中途半端に妥協せず、研究を極めること。そのためにも食わず嫌いをさけること。